

芝地域

(1) 芝地域の概要

本地域は、市の西部に位置し、JR蕨駅や南浦和駅、東浦和駅に隣接し、各駅周辺に商業地が形成されています。

市街地が急速に拡大したことでスプロール化し、道路や公園などの都市基盤整備が不十分であることから、土地区画整理事業による良好な住環境の形成に向けたまちづくりを進めています。

また、狭小宅地や狭あい道路が多く存在する区域では、住宅市街地総合整備事業や地区計画の導入、準防火地域の指定による安全で快適な生活空間を確保し、防災性の向上を図る取り組みを行っています。



本地域のまちづくりに向けた主なポイントとして、以下のものがあげられます。

<芝地域のまちづくりのポイント>

- ① 蕨駅周辺のまちづくり
- ② 住・工混在市街地の適切な土地利用への誘導
- ③ 都市機能を支える交通体系づくり
- ④ 親しみのある水辺の環境づくり
- ⑤ 公共施設の計画的な更新
- ⑥ 総合的かつ計画的な防災まちづくりの推進



<芝東第6地区土地区画整理事業>



<(旧) 藤右衛門川>

(2)芝地域のまちづくり方針

① 蕨駅周辺のまちづくり

- ◎商業施設に加え、保育施設や医療・福祉施設等の公共公益施設などの都市機能を適切に配置・整備・誘導するとともに、駅周辺の交通環境の改善により、安全で、利便性の高いにぎわいある駅周辺環境の形成を図ります。
- ◎多様化する消費者ニーズを踏まえ、各商店街の特性を生かした個性的で魅力ある商業環境の再生を図ります。
- ◎蕨駅へ向かう都市計画道路は、快適に利用できるよう歩行者のための環境整備を進めるとともに、沿道ににぎわいのある商業など生活サービス機能が連なる土地利用を誘導します。

② 住・工混在市街地の適切な土地利用への誘導

- ◎既存の工場や倉庫などの維持・保全に配慮する一方で、工場や倉庫などの跡地の土地利用転換にあたっては、住宅だけではなく、商業・医療・保育など様々な生活サービス機能を有する施設を誘導し、快適で良好な住・工・商が共存するまちづくりを推進します。

③ 都市機能を支える交通体系づくり

- ◎密集市街地においては、土地区画整理事業や住宅市街地総合整備事業を推進し、地区内の都市計画道路の拡幅・整備を進めるとともに、地域の暮らしを支える生活道路網を形成します。
- ◎地域の道路利用の実態にあわせ、安全な歩行者・自転車空間の整備を推進します。

④ 親しみのある水辺の環境づくり

- ◎豎川や緑川、藤右衛門川などの地域内を流れる中小河川は、河川改修事業にあわせ、暮らしにやすらぎと潤いを与える空間としての活用を進めます。
- ◎見沼代用水などの地域内を流れる用水路は、多様な自然生態系に配慮した空間の整備を進めます。

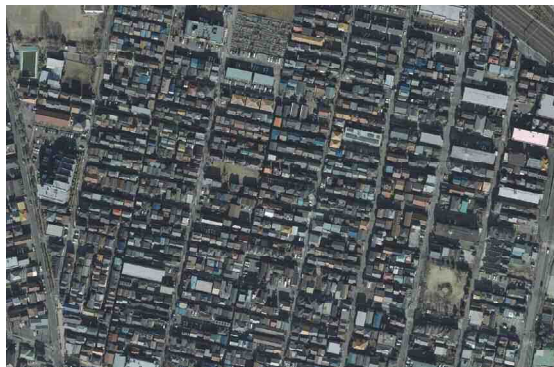
⑤ 公共施設の計画的な更新

- ◎廃校となった小・中学校の跡地については、既存の公共施設の計画的な統廃合や地域のまちづくりに寄与することを主眼とした跡地の有効利用を推進し、生活利便性の高い都市環境の形成を図ります。

⑥ 総合的かつ計画的な防災まちづくりの推進

◎誰もが安心して住み続けられるように、地震や豪雨などの自然災害や大規模火災に強い総合的かつ計画的な防災まちづくりを進めます。

◎密集市街地においては、土地区画整理事業や住宅市街地総合整備事業を推進し、生活道路の整備などを行うなど、防災性の向上を図ります。特に、地震時等に著しく危険な密集市街地については、先行的に事業に取り組み、防災性に配慮した安全で快適な市街地整備を推進します。

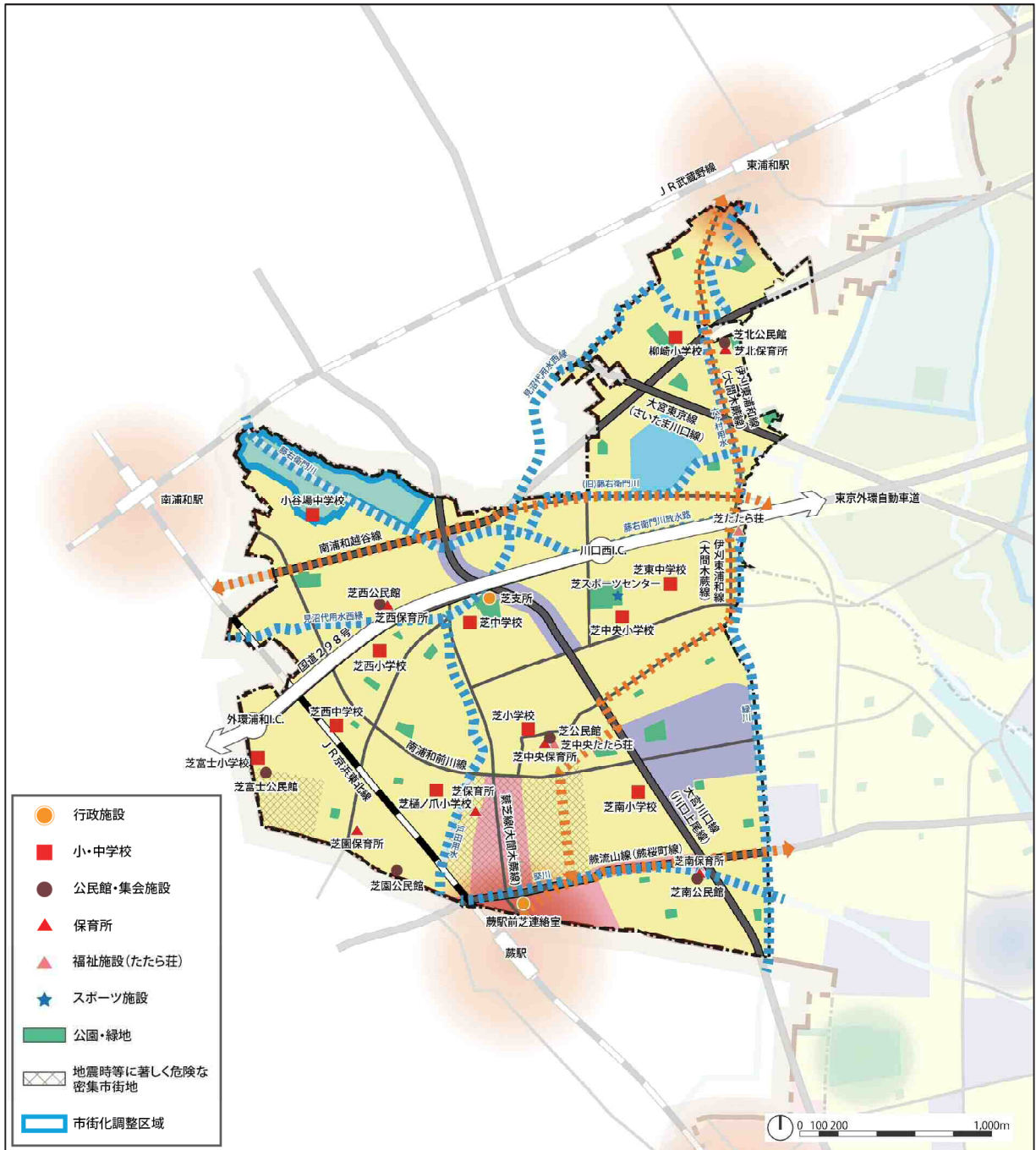


＜密集市街地（芝富士地区）＞

◎一次避難場所である芝スポーツセンターは、耐震化を行うなど防災機能の強化を推進します。

◎県道川口上尾線など緊急輸送道路沿道における建築物の耐震化を促進します。

【芝地域のまちづくり方針図】



凡 例		
ゾーン	拠点	ネットワーク
住宅を主体とするエリア	駅を中心とする生活拠点	拠点を結ぶ公共交通軸(バス)
商業と住宅が共生するエリア		地区内幹線道路
住宅と工業が共生するエリア		広域・都市幹線道路網
工場を主体とするエリア		水のネットワーク
自然環境を保全するエリア		

※拠点を結ぶ公共交通軸(バス)とは、30本/日以上バス路線のうち、拠点間を結ぶ路線を表しています。
※道路名については、()内に、国道・県道名を記載しています。

安行地域

(1) 安行地域の概要

本地域は、市の北東部に位置し、草加市と隣接しています。

市内でも緑の豊富な地域であり、緑化産業が集積していることが特徴です。生産面だけではなく緑化産業に係る情報発信・流通拠点も立地しており、本地域から出荷される植木などは国内でも有数の知名度を誇ります。

近年は植木をはじめとする緑化産業の営農環境が悪化し、農地の宅地化や耕作放棄地の増加が続いています。貴重な緑農地を守るため様々な対策を講じて、都市農業の振興を図り、都市農地を保全する必要があります。



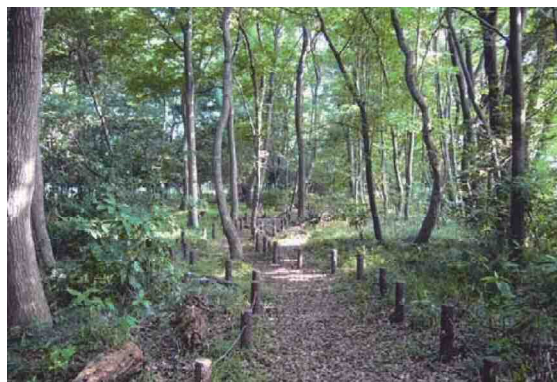
本地域のまちづくりに向けた主なポイントとして、以下のものがあげられます。

<安行地域のまちづくりのポイント>

- ① 都市と緑・農が共生するまちづくり
- ② 幹線道路沿道地域への産業誘致のための環境づくり
- ③ 都市機能を支える交通体系づくり
- ④ 親しみのある水辺の環境づくり
- ⑤ 総合的かつ計画的な防災まちづくりの推進



<川口緑化センター（樹里安）>



<赤堀用水沿斜面林ふるさとの森>

(2)安行地域のまちづくり方針

① 都市と緑・農が共生するまちづくり

- ◎都市化や後継者不足により営農が厳しい緑化産業に対し、様々な支援をすることで、緑化産業の振興と貴重な都市農地の保全を図ります。
- ◎市街化調整区域において、営農を継続できる支援方策、民間活力を活用した都市農業の振興方策及び、新たな土地利用に対する緑の保全方策の検討を進めるなど、貴重な緑農環境の保全や緑農産業の振興を図ります。

② 幹線道路沿道地域への産業誘致のための環境づくり

- ◎高速道路の沿道地域にある大規模な都市農地の土地利用転換にあたっては、住宅だけではなく、流通サービス機能を有する施設等を誘導する方策の検討を進め、雇用創出や地域経済の活性化を図ります。

③ 都市機能を支える交通体系づくり

- ◎駅などの拠点を結ぶ BRT など新たな公共交通システムの導入の検討を進め、交通ネットワークの充実を図ります。
- ◎駅や川口緑化センター（樹里安）など各種施設を結ぶ交通ネットワークの充実や、周辺の地域にある（仮称）赤山歴史自然公園など地域間の回遊性向上を図ります。
- ◎土地区画整理事業を推進し、地区内の都市計画道路の拡幅・整備を進めるとともに、地域の暮らしを支える生活道路網を形成します。
- ◎地域の道路利用の実態にあわせ、安全な歩行者・自転車空間の整備を推進します。

④ 親しみのある水辺の環境づくり

- ◎伝右川などの地域内を流れる中小河川は、河川改修事業にあわせ、暮らしにやすらぎと
うるおいを与える空間としての活用を進めます。
- ◎赤堀用水などの地域内を流れる用水路は、沿川のイチリンソウの自生地である斜面林を
生かしながら、多様な自然生態系に配慮した空間の整備を進めます。



<イチリンソウ>

⑤ 総合的かつ計画的な防災まちづくりの推進

- ◎誰もが安心して住み続けられるように、地震や豪雨などの自然災害や大規模火災に強い総合的かつ計画的な防災まちづくりを進めます。
- ◎河川改修事業により、赤堀用水の流下能力を向上させ、浸水被害の軽減を図ります。

【安行地域のまちづくり方針図】



凡 例		
ゾーン	拠点	ネットワーク
住宅を主体とするエリア	駅を中心とする生活拠点	拠点を結ぶ公共交通軸(バス)
商業と住宅が共生するエリア	緑化産業拠点	地区内幹線道路
住宅と工業が共生するエリア		広域・都市幹線道路網
自然環境ゆたかな住宅エリア		水のネットワーク
自然環境を保全するエリア		

※拠点を結ぶ公共交通軸(バス)とは、30本/日以上バス路線のうち、拠点間を結ぶ路線を表しています。
 ※道路名については、()内に、国道・県道名を記載しています。